

愛称：はぐむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

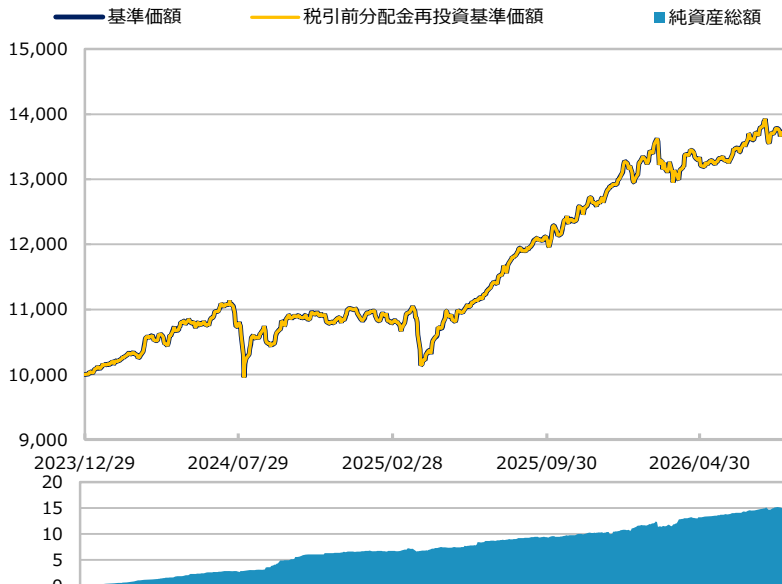
追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

ファンド設定日：2024年01月04日

日経新聞掲載名：はぐニー成長

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	13,801	-14
純資産総額（百万円）	1,524	+29

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド
1 ヵ月	2026/07/31	-0.1
3 ヵ月	2026/05/29	3.7
6 ヵ月	2026/02/27	1.7
1 年	2025/08/29	16.0
3 年		
設定来	2024/01/04	38.0

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第1期	2024/05/15	0
第2期	2024/11/15	0
第3期	2025/05/15	0
第4期	2025/11/17	0
第5期	2026/05/15	0
設定来累計		0

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（％）

	基本配分	当月末	基本配分との差	前月比
株式計	45.0	46.6	+1.6	+0.9
日本株式	22.5	23.1	+0.6	+0.7
グローバル株式	22.5	23.5	+1.0	+0.2
債券計	32.5	30.2	-2.3	+0.0
日本債券	10.0	9.3	-0.7	+0.1
海外債券	22.5	21.0	-1.5	-0.0
リート	22.5	20.5	-2.0	-0.8
現金等	0.0	2.7	+2.7	-0.1
合計	100.0	100.0	0.0	0.0

※ 各組入投資信託の正式名称は2枚目以降をご覧ください。

基準価額の変動要因(円)

	寄与額
日本株式	+110
グローバル株式	+30
日本債券	+0
海外債券	-7
リート	-135
分配金	0
その他	-11
合計	-14

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。
※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

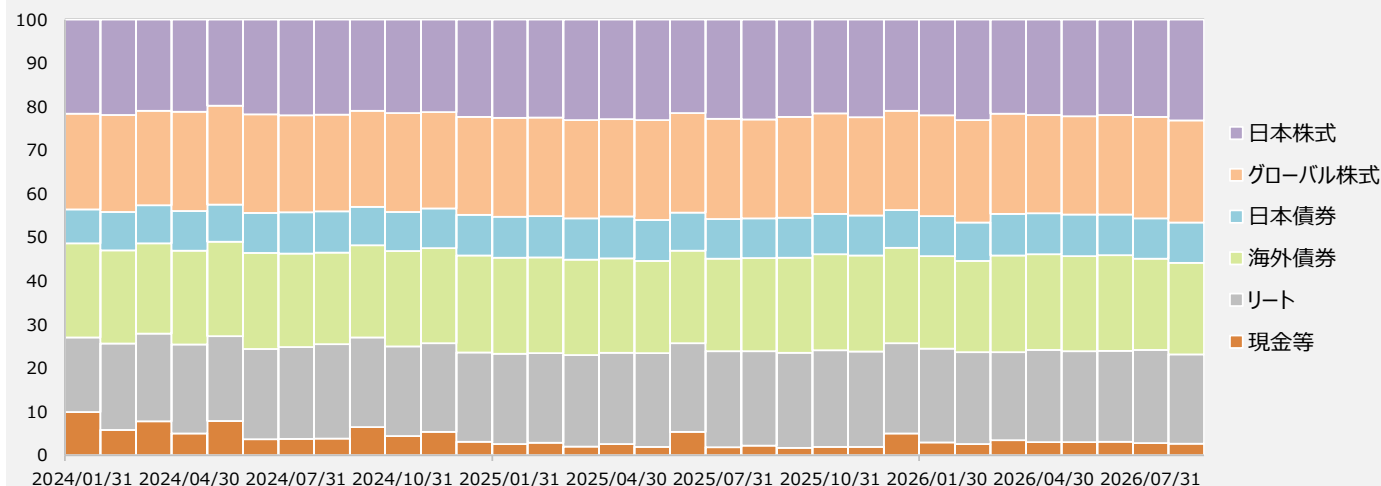
マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

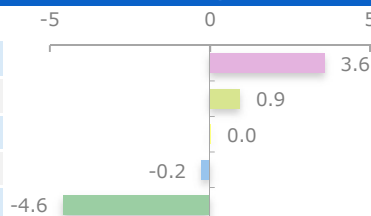
資産構成比率の推移 (%)



組入投資信託の騰落率 (%)

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
日本株式	3.6	9.0	5.0	31.5	-	78.5
グローバル株式	0.9	8.8	9.9	34.9	-	87.4
日本債券	0.0	0.2	-0.1	0.9	-	3.0
海外債券	-0.2	-0.4	0.7	10.4	-	22.9
リート	-4.6	0.2	-5.2	2.8	-	17.0

当月騰落率 (%)



- ※ 日本株式の正式名称は「FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）」です。
- ※ グローバル株式の正式名称は「グローバル好配当株マザーファンド」です。
- ※ 日本債券の正式名称は「FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）」です。
- ※ 海外債券の正式名称は「コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド」です。
- ※ リートの正式名称は「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

ファンドマネージャーコメント

＜運用経過＞

各資産とも方針通り高位の組み入れを継続しました。資産配分は、基本方針からの乖離が小さくなるように調整しております。

国内株式市場は上昇しました。2026年4-6月期の企業業績が総じて良好であったほか、米国で経済指標の下振れにより利上げ観測が後退したことが支えとなり、史上最高値を更新しました。その後、中東情勢緊迫化による原油高、内外長期金利の上昇を受けて下落する場面もありましたが、企業業績のさらなる改善期待、米大手半導体企業の好決算などが下支えとなりました。

米国株式市場は、上昇しました。エヌビディアなど大型IT企業の良好な決算発表を受けて、企業業績に対する明るい見方が支援材料となりました。また、雇用や物価などの経済指標が早期利上げ観測を後退させたことも好感されました。

米国の長期金利（10年国債利回り）は前月末と比較して概ね横ばいとなりました。中東情勢の不透明感に伴う原油価格の上昇が金利上昇要因となる一方、米財務省が長期国債買い戻しの増額を発表したことなどが金利低下要因となり一進一退となりました。月末にかけてはFRB（米連邦準備制度理事会）議長がインフレ高止まりへの警戒を示し利上げ観測が高まったことなどから金利が上昇しました。

リート市場は金利の上昇を受けて下落しました。

今月は株式は上昇する一方で債券価格やリートが下落したことなどから、ファンドの基準価額は前月末比で概ね横ばいとなりました。

＜今後の運用方針＞

引き続き、各投資信託を組み入れることにより、実質的に世界の株式、リート、債券に分散投資を行い、安定的なインカム収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「配当フォーカスマザーファンド」の情報を記載しています。

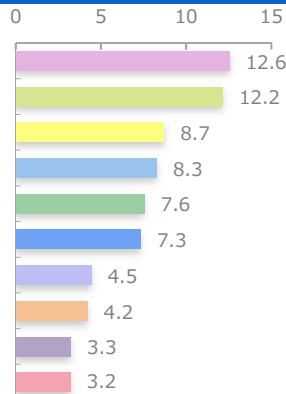
資産構成比率（％）

	当月末	前月比
株式	99.2	-0.1
先物等	0.0	0.0
現金等	0.8	+0.1
合計	100.0	0.0

組入上位10業種（％）

	当月末	前月比
1 銀行業	12.6	+0.8
2 卸売業	12.2	+0.2
3 建設業	8.7	-0.2
4 電気機器	8.3	+0.3
5 サービス業	7.6	-0.1
6 情報・通信業	7.3	+0.2
7 小売業	4.5	-0.3
8 輸送用機器	4.2	-0.0
9 化学	3.3	+0.1
10 保険業	3.2	-0.2

※ 業種は東証業種分類です。



ポートフォリオ特性値（％）

	ファンド	市場
予想配当利回り	3.5	2.1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 「市場」はTOPIXの値を表示しています。

※ NPMのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10銘柄（％）

		(組入銘柄数 97)	
銘柄	業種	比率	
1 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.9	
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.8	
3 三井住友トラストグループ	銀行業	2.6	
4 西華産業	卸売業	1.8	
5 ジェイテクト	機械	1.7	
6 MS&ADインシュアランスグループホールディングス	保険業	1.6	
7 第一ライフグループ	保険業	1.6	
8 日本たばこ産業	食料品	1.6	
9 NTT	情報・通信業	1.6	
10 KDDI	情報・通信業	1.5	

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「配当フォーカスマザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

8月の国内株式市場は上昇しました。

2026年4-6月期の企業業績が総じて良好であったほか、米国で経済指標の下振れにより利上げ観測が後退したことが支えとなり、史上最高値を更新しました。その後、中東情勢緊迫化による原油高、内外長期金利の上昇を受けて下落する場面もありましたが、企業業績のさらなる改善期待、米大手半導体企業の好決算などが下支えとなりました。月末に、米国ではFRB（米連邦準備制度理事会）議長の講演で利上げ観測が再燃しましたが、国内株式市場は底堅く推移しました。業種別では、サービス業、海運業、非鉄金属などが市場をアウトパフォームした一方、保険業、ガラス・土石製品、倉庫・運輸関連業などがアンダーパフォームしました。

<市場見通し>

国内株式市場は、高値圏でもみ合う展開を予想します。世界景気はAI投資の拡大や主要各国の拡張的な財政政策が支えとなり底堅く推移し、国内景気も政府の景気対策や根強い設備投資により拡大が続く見通しです。底堅い内外景気を背景とした良好な企業業績に加え、高市政権の成長戦略やガバナンス（企業統治）改革も株価の下支え要因になると考えます。一方、中東情勢を巡る不透明感、内外長期金利の上昇、日米金融政策の先行きに対する警戒などが、当面の上値を抑える要因になると考えます。

<運用経過>

個別銘柄の予想配当利回りに注目しつつ、業績見通しや財務状況、株主還元策を含めた経営戦略などを勘案しながら銘柄入れ替えを行い、ポートフォリオ全体の予想配当利回り水準の引き上げに努めました。

<今後の運用方針>

「高水準の配当を継続できる銘柄に投資する」という観点で投資銘柄を選別していく方針です。企業の株主還元姿勢に加え、業績動向、キャッシュフローの創出力や配当余力など、様々な側面から銘柄を抽出し、ポートフォリオを構築していきます。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「配当フォーカスマザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜ファンドマネージャーからのひとこと＞

今年も8月後半に、例年通り数日、夏休みを取ったのですが、今年はやや早めに切り上げて東京に戻ってきました。というのは、都内で「日経・東証IRフェア」というイベントがあって、そこに登壇したからです。

このイベントは8/28と8/29の2日間の開催で、私は8/29土曜日に参加したのですが、会場に行って本当に驚きの連続でした。

このイベントには、数年前に参加したことがあるのですが、当時とはまったく違っていました。とにかく人、人、人！ 当時よりも会場はかなり広がったはずですが、どこに行っても人が多く、会場が狭く感じました。また出展企業数の多さにも驚きました。それも、こういったイベントに参加する企業は、あまり個人投資家には知られていない、小型株に属するような企業が認知度向上のために参加するものだと思っていたのですが、誰でも知っているような有名大企業も多く出展していました。運営の方にお聞きしたのですが、出展企業数は200社超と過去最多で、それでも参加希望企業はもっと多く、会場の都合上、断らざるを得なかったそうです。

簡単に会場を歩き回って、いくつかの企業のブースをのぞいたのですが、どのブースも満員で、そして多くの方々が本当に熱心に企業の話聞いていました。あまりの人の多さとその熱気がすごくて、みなさんよく何時間もここにいられるなと感心してしまうほどでした。それだけみなさん真剣なのでしょう。

今回、このイベントに参加してみて、ここ数年の日本株市場の変化を「体感」することができました。その変化とは、「個人投資家の増加」と「企業のIRへの取組姿勢」です。良好な市場環境、またNISA（少額投資非課税制度）などの制度の後押しもあり、個人投資家はここ数年で大きく増加したようです。そしてその増加した個人投資家向けに、IRを強化する企業も増えているようです。最近、個人投資家を増やすために株主優待制度を変更する企業が増えているのもそのためでしょう。

機関投資家と異なり、投資スタイル、投資ホライズンなど、個人投資家は実に多様です。個人投資家が増えることで、株式市場の安定性にもつながると考えています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「グローバル好配当株マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
株式	95.5	-0.0
先物等	0.0	0.0
現金等	4.5	+0.0
合計	100.0	0.0

ポートフォリオ特性値 (%)

	当月末	前月比
配当利回り	3.2	+0.0

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 配当利回りはBloombergのデータを基にした直近配当利回りです。Bloombergに配当情報がない銘柄は除いて算出しています。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカ	29.8	-1.6
2 日本	11.0	-0.9
3 フランス	10.2	+0.7
4 オーストラリア	9.8	+0.2
5 スペイン	9.6	+0.1

※ Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

組入上位5通貨 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカドル	32.5	-1.2
2 ユーロ	28.1	+1.1
3 日本円	11.0	-0.9
4 オーストラリアドル	9.8	+0.2
5 シンガポールドル	5.1	+0.1

組入上位5業種 (%)

	当月末	前月比
1 銀行	14.8	+0.4
2 商業・専門サービス	11.0	+0.3
3 公益事業	8.2	+0.2
4 金融サービス	8.0	+0.4
5 エネルギー	7.4	+0.7

※ 業種は、外国株式がGICS（世界産業分類基準）による分類、国内株式が東証業種分類です。

組入上位10銘柄 (%)

(組入銘柄数 55)

銘柄	国・地域	業種	比率	配当利回り
1 DBSグループ	シンガポール	銀行	5.1	4.1
2 バンク・オブ・ニューヨーク・ Mellon	アメリカ	金融サービス	2.9	1.4
3 イベルドローラ	スペイン	公益事業	2.8	3.4
4 アクセンチュア	アイルランド	ソフトウェア・サービス	2.7	3.4
5 ガズトランスポール・エ・テクニガズ	フランス	エネルギー	2.7	4.3
6 インドゥストリア・デ・ディセニョ・テクスティル	スペイン	一般消費財・サービス流通・小売り	2.6	3.0
7 コンピューターシェア	オーストラリア	商業・専門サービス	2.5	3.2
8 アメリカン・ウォーター・ワークス	アメリカ	公益事業	2.5	2.5
9 マーシュ・アンド・マクレナン	アメリカ	保険	2.4	1.9
10 B B V A	スペイン	銀行	2.3	3.7

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「グローバル好配当株マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

【株式市場】

米国株式市場は、上昇しました。エヌビディアなど大型IT企業の良い決算発表を受けて、企業業績に対する明るい見方が支援材料となりました。また、雇用や物価などの経済指標が早期利上げ観測を後退させたことも好感されました。しかし、膠着する中東情勢を受けて原油価格が高止まりし、長期金利が上昇した局面では、株式市場の上値は抑えられました。

欧州株式市場は、前月末と比較して概ね横ばいとなりました。上旬は米国の景気指標などを好感しました。その後は原油価格の高止まりや長期金利の上昇などから反落しました。

アジア・オセアニア株式市場では、香港市場は下落しました。中国当局が、本土居住者に対して香港など本土外の保険契約から得る収益への課税を強化しているとの報道が嫌気されました。一方、堅調な商品市況を受けて資源関連銘柄を中心にオーストラリアは堅調に推移しました。

【為替市場】

米ドル/円は上昇しました。原油価格上昇による日本の貿易赤字拡大懸念などを背景に円安傾向となりました。その後、米財務省による長期国債買い戻し増額の発表を受けた米金利の低下から、一時米ドル安となる場面もありましたが、月末にかけてはFRB（米連邦準備制度理事会）議長のタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的な発言などを背景に米ドル高が進みました。

ユーロ/円は上昇しました。原油価格上昇による日本の貿易赤字拡大懸念に加えて、欧州金利の上昇やECB（欧州中央銀行）の利上げ観測を背景にユーロ高・円安が進みました。

＜運用経過＞

当ファンドは、景気変動の影響を受けにくい業種に軸足を置き、減配リスクを考慮した運用を行いました。8月は、業界全体の流れとして、特許切れ対策や事業多角化を目的とした企業買収が相次ぐ中、配当利回りや配当成長性の観点から相対的な投資魅力度が低下していると判断し、米国の大手製薬銘柄を売却しました。一方、4-6月期の業績発表において会社側から今後数年にわたる良好な業績成長見通しが示されたことなどから、フランスのエネルギー銘柄や日本の自動車部品銘柄を購入しました。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「グローバル好配当株マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場見通し＞

【株式市場】

米国株式市場は、トランプ大統領が中間選挙に向けて強硬的な対外政策を続ける可能性があり、地政学リスクが依然残っていることや、利上げへの警戒感から、上値の重い展開が見込まれます。ただし、米国の企業業績は堅調な推移が今後も続くともみられ、徐々にレンジを切り上げる展開を予想します。

欧州株式市場も、不安定な中東情勢や金融政策に対する警戒感が当面の上値を抑える展開が見込まれます。ただし、ドイツをはじめとする欧州主要国での財政出動の効果が期待され、緩やかな上昇を予想します。

アジア・オセアニア株式市場は、AIの浸透が中長期的に経済成長や企業収益の改善につながるとの期待を背景にテクノロジー産業への投資や生産が拡大していることから、底堅い推移が見込まれます。ただし、米中の貿易協議を巡る不透明感や中東における紛争などがリスク要因として残ることから市場の変動性が高まる可能性があります。

【為替市場】

米ドル/円は米ドル高・円安を予想します。日米通貨当局による円買い介入への警戒が上値抑制要因となるとみられますが、金融政策の方向性は日米ともに利上げが想定されるなか、日米金利差が維持されることに加え、日本企業の対外直接投資拡大や家計の外貨建て投信購入拡大などが円安材料と見込まれます。

ユーロ/円はもみ合いの展開を予想します。日銀の利上げが想定され円高要因となることが見込まれる一方、ドイツなどの財政支出によりユーロ圏景気がサポートされることや、ECBの追加利上げ観測がユーロ高要因となる見通しです。

＜今後の運用方針＞

当面の株式市場は、情報技術など一部のセクターだけではなく、より広範囲なセクターにおいて業績・配当面で上方修正の余地がある銘柄の循環物色が続く可能性があります。

当ファンドは、過去の実績や経営陣の手腕等により、増配に必要な利益とキャッシュフローを継続的に増大させてきた「質の高い企業」の中から、主として足元の配当利回りと今後の配当成長性に着目し、財務の安定性や流動性を十分に考慮したうえで、相対的に配当利回りの高い銘柄を中心に投資します。また、企業の収益動向や配当政策などの変化に注目し、今後の継続的な増配が見込める企業へも投資します。引き続き、以下の3点を重視します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「グローバル好配当株マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

1. 「経営実績や経営陣などの「会社の質」と配当実績が優れていること」
2. 「数年先までの成長持続性、売上やキャッシュフロー成長の確実性が期待されること」
3. 「今後の資本政策、特に配当を含む株主還元のスタンスが明確なこと」

「好配当株」企業への投資は、足元の相対的な配当利回りが高いだけでなく、今後、長期にわたり増配が続くという、「配当の成長」も重要です。優れた経営を実践している「質の高い」企業は配当政策など株主還元への姿勢も明確であり、投資家は定期的に配当収入を受け取りながら中長期の企業価値の成長（キャピタルゲイン）からも恩恵を受けることができます。

昨今の投資環境の変化を受けて、「好配当株」投資においても、今後の配当成長率と比較して足元の配当利回りが相対的に高い銘柄がより選好される可能性があります。当ファンドは、引き続き、配当利回りと配当成長率のバランスを重視した銘柄選択による安定的なパフォーマンスの実現を目指してまいります。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「ジャパン・クレジット・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
債券	89.4	-0.3
現金等	10.6	+0.3
合計	100.0	0.0

※ 現金等に先物等を含めた値です。

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン（％）	3.2	+0.1
残存年数（年）	4.7	+0.2
デュレーション（年）	4.1	+0.1
直接利回り（％）	3.3	+0.1
最終利回り（％）	3.6	+0.2
平均格付け	A-	A

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 繰上償還条項が付与されている場合は、原則として繰上償還発効日を償還日とみなして算出しています。

※ 格付けは投資債券に対する主要格付機関の格付けに基づいており、ファンドにかかる格付けではありません。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5通貨（％）

	当月末	前月比
1 日本円	60.0	-0.3
2 アメリカドル	29.4	-0.0

※ 為替ヘッジ前の値です。現金等を除く。

組入上位5カ国・地域（％）

	当月末	前月比
1 日本	89.4	-0.3

種別構成比率（％）

	当月末	前月比
国債	0.0	-4.5
地方債	0.0	0.0
政府機関債	0.0	0.0
事業債	85.0	+3.9
円建外債	0.0	0.0
その他債券	4.4	+0.2

格付構成比率（％）

	当月末	前月比
AAA	0.0	-4.5
AA	4.2	-4.3
A	61.6	-0.4
BBB	19.1	+4.4
BB以下	4.4	+4.4

組入上位10銘柄

(組入銘柄数 18)

銘柄	通貨	国・地域	クーポン (％)	残存年数 (年)	比率 (％)
1 富国生命保険相互会社社債	アメリカドル	日本	6.800	7.2	8.3
2 野村ホールディングス社債	アメリカドル	日本	6.070	1.9	7.4
3 朝日生命保険相互社債	アメリカドル	日本	6.900	1.4	7.3
4 日本生命保険社債	アメリカドル	日本	2.750	4.4	6.4
5 4 パナソニックホールディングス劣後債	日本円	日本	3.455	6.1	4.5
6 26 三井住友フィナンシャルグループ劣後債	日本円	日本	3.043	5.3	4.4
7 1 全共連5劣後ローン社債	日本円	日本	3.892	10.0	4.4
8 27みずほフィナンシャルグループ劣後債	日本円	日本	3.073	5.3	4.4
9 29 三菱UFJフィナンシャル・グループ劣後債	日本円	日本	2.919	4.9	4.4
10 85 東京電力PG	日本円	日本	1.803	3.1	4.4

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100％として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「ジャパン・クレジット・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜8月の債券市場＞

国内の長期金利（10年国債利回り）は上昇しました。7月末を挟んで為替介入が観測されたことから、国内では利上げ前倒しへの期待が高まり、金利は上昇しました。上旬には、中東情勢改善への期待から原油価格が下落し、金利がやや低下する局面もありましたが、米国とイランとの協議が再開せず、同情勢の改善は進みませんでした。中旬には、為替市場での円安地合いが続く中で、政府が日銀の早期利上げ容認との観測報道が伝わり、国内金利は上昇が進みました。その後は、一時的な米金利低下に追随して金利低下する場面もありましたが、原油価格の高止まりや円安地合いが続く中で、利上げペース加速観測や政府の財政拡大スタンスへの警戒が継続し、金利は上昇基調で推移しました。

国内社債市場では、社債スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は横ばい圏で推移しました。中東情勢の緊迫化を背景とした原油高・インフレ懸念や、日銀の早期利上げ観測の高まりによる金利ボラティリティ（変動性）の上昇がスプレッド拡大要因となった一方で、投資家の旺盛な需要や企業の堅調な業績見通しがスプレッド縮小要因となり、両者が相殺する形で横ばい圏での推移となりました。

＜8月の運用＞

信用力に大きな懸念のない銘柄に厳選したポートフォリオを継続しました。金利ヘッジ戦略においては、金利の見通しに合わせて適宜ポジションを調整しました。

＜今後の見通しと運用方針＞

国内景気は、中東情勢の緊迫化による下押しの影響があったものの、先行きは経済対策や企業の根強い設備投資意欲を支えに成長軌道をたどる見通しです。CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）の前年比伸び率は足元で鈍化しているものの、政策要因の影響を除けば、今後も+2%程度の伸び率を維持する見通しです。日銀は物価安定の目標実現が近づく中で、先行きは物価上振れのリスクを重視する姿勢を示しており、今後も追加利上げを進めていく姿勢を維持する見通しです。政府の財政拡大スタンスへの警戒もくすぶり続けることで、金利は上昇しやすい環境が続く見込みです。

国内社債市場では、社債スプレッドは小幅の縮小を想定しています。従来のスプレッド縮小要因（緩和的な金融環境や堅調な企業業績見通し）に変化がない中、現状で最大の拡大要因となり得る中東情勢は、悪化と鎮静化を繰り返しつつも最終的には鎮静化に向かう公算が大きく、サプライチェーン（供給網）の混乱も回避される見込みです。また、プライベートクレジット市場に絡むリスクは残るものの、現時点で市場全体への波及は限定的と

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリーレポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「ジャパン・クレジット・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

なる見込みです。ただし、日銀の利上げペースが加速し、金融環境が引き締めの的に転換することでスプレッドが拡大するリスクは、従来に比べ高まっています。一方、中東情勢の再度の悪化や、クレジットイベント発生の可能性への警戒も必要と考えています。

当ファンドでは、スプレッド拡大に備え、信用力に大きな懸念のない銘柄を組み入れ、安定的な収益の確保に努めます。また、金利の見通しに合わせて、金利のヘッジも機動的に行っていく方針です。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
債券	97.4	-0.2
先物等	0.0	0.0
現金等	2.6	+0.2
合計	100.0	0.0

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン (%)	4.6	+0.0
残存年数 (年)	7.9	-0.0
デュレーション (年)	6.2	+0.0
直接利回り (%)	4.7	+0.0
最終利回り (%)	5.2	+0.0
平均格付け	A	A

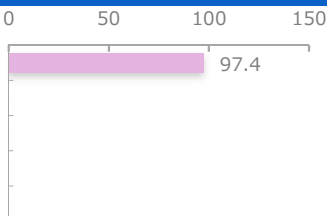
※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 格付けは投資債券に対する主要格付機関の格付けに基づいており、ファンドにかかる格付けではありません。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

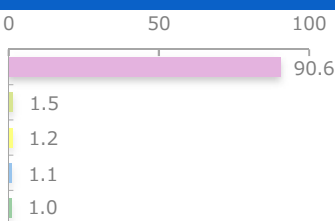
組入上位5通貨 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカドル	97.4	-0.2



組入上位5カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカ	90.6	-0.3
2 日本	1.5	+0.0
3 イギリス	1.2	+0.0
4 アイルランド	1.1	+0.0
5 フランス	1.0	+0.0



種別構成比率 (%)

	当月末	前月比
国債	0.0	0.0
州政府債	0.0	0.0
政府機関債	0.0	0.0
国際機関債	0.0	0.0
社債	97.4	-0.2
その他	0.0	0.0

格付構成比率 (%)

	当月末	前月比
AAA	0.3	-0.0
AA	12.8	+0.1
A	69.1	+0.1
BBB	15.2	-0.4
BB以下	0.0	0.0

組入上位10銘柄

(組入銘柄数 212)

銘柄	通貨	国・地域	クーポン (%)	残存年数 (年)	比率 (%)
1 DRホートン社債	アメリカドル	アメリカ	5.000	8.1	1.8
2 エンタープライズ・プロダクツ・オペレーティング社債	アメリカドル	アメリカ	5.200	9.4	1.5
3 サーマフィッシャーサイエンティフィック社債	アメリカドル	アメリカ	5.404	16.9	1.3
4 アンフェノール社債	アメリカドル	アメリカ	5.250	7.6	1.2
5 ケンビュー社債	アメリカドル	アメリカ	5.100	16.6	1.1
6 トレイン・テクノロジーズ社債	アメリカドル	アイルランド	5.100	7.8	1.1
7 ネットフリックス社債	アメリカドル	アメリカ	4.900	8.0	1.1
8 コカ・コーラ社債	アメリカドル	アメリカ	4.650	8.0	1.0
9 ジョン・ディア・キャピタル社債	アメリカドル	アメリカ	2.450	3.4	1.0
10 マラソン・ペトロリウム社債	アメリカドル	アメリカ	5.700	8.5	0.9

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜8月の相場概況＞

米国の長期金利（10年国債利回り）は前月末と比較して概ね横ばいとなりました。中東情勢の不透明感に伴う原油価格の上昇が金利上昇要因となる一方、米財務省が長期国債買い戻しの増額を発表したことなどが金利低下要因となり一進一退となりました。月末にかけてはFRB（米連邦準備制度理事会）議長がインフレ高止まりへの警戒を示し利上げ観測が高まったことなどから金利が上昇しました。

社債スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は、概ね横ばい推移となりました。

米ドル/円は上昇しました。原油価格上昇による日本の貿易赤字拡大懸念などを背景に円安傾向となりました。その後、米財務省による長期国債買い戻し増額の発表を受けた米金利の低下から、一時米ドル安となる場面もありましたが、月末にかけてはFRB議長のタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的な発言などを背景に米ドル高が進みました。

＜8月の運用状況＞

新発債については、消費財のヘイリオン、食品のアーチャー・ダニエルズ・ミッドランド等の新発債を購入しました。デュレーション（投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度）は、前月比で概ね横ばいとししました。

A格相当以上を中心として、業種別では安定業種（消費・公益・通信）が過半となるように組み入れています。

＜今後の市況見通し＞

米国では、インフレ率の高止まりが続くとみられ、FRBによる利上げの可能性が高まっていると考えます。このような環境のなかで、長期金利は上昇に向かうと予想します。

米国社債市場は、景気が大崩れせず企業が比較的健全な財務を維持することを想定し、社債スプレッドは総じて安定的に推移すると予想しています。

米ドル/円は米ドル高・円安を予想します。日米通貨当局による円買い介入への警戒が上値抑制要因となるとみられますが、金融政策の方向性は日米ともに利上げが想定されるなか日米金利差が維持されることに加え、日本企業の対外直接投資拡大や家計の外貨建て投信購入拡大などが円安材料と見込まれます。

＜投資方針＞

以上の投資環境見通しをベースに、社債発行企業の信用力評価や個別証券の投資価値に着目して、銘柄選択を

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

行っていきます。ポートフォリオ全体の業種配分は安定業種を多めとし、格付け配分についてはA格以上を中心とします。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be
Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「リート・アジアミックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ポートフォリオ特性値（％）

	当月末	前月比
配当利回り	4.8	+0.2

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 配当利回りは予想配当利回りです。

※ Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10カ国・地域（％）

	比率	配当利回り
1 日本	48.7	5.1
2 シンガポール	21.6	5.5
3 オーストラリア	19.4	3.3
4 香港	7.2	6.5
5 インド	0.6	5.6

組入上位10通貨（％）

	当月末	前月比
1 日本円	48.7	-0.4
2 シンガポールドル	21.4	-0.7
3 オーストラリアドル	19.4	+2.0
4 香港ドル	7.2	-0.2
5 インドルピー	0.6	+0.0
6 アメリカドル	0.2	-0.3

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 49）

銘柄	国・地域	比率	配当利回り
1 グッドマン・グループ	オーストラリア	8.2	1.1
2 リンク・リート	香港	7.1	6.5
3 キャピタランド・インテグレートド・コマーシャル・トラスト	シンガポール	6.9	4.5
4 キャピタランド・アセンダス・リート	シンガポール	4.4	6.2
5 オリックス不動産投資法人	日本	4.1	5.0
6 ユナイテッド・アーバン投資法人	日本	4.0	5.4
7 日本プライムリアルティ投資法人	日本	3.8	4.4
8 ジャパンエクセレント投資法人	日本	3.3	4.4
9 日本都市ファンド投資法人	日本	3.1	5.3
10 アクティビア・プロパティーズ投資法人	日本	2.9	4.6

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「リート・アジアミックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

8月のアジア・オセアニアリート市場は、日本、シンガポール、香港、オーストラリアのすべての市場で下落しました。

Jリート市場は、不動産ファンダメンタルズ（基礎的諸条件）は引き続き堅調ですが、7月末の日米協調での円買い介入を受けて、日銀が9月にも追加利上げを実施し、利上げペースを加速するとの見方が強まり、需給が軟化しました。

シンガポールリート市場は、原油価格の再上昇でインフレが強まる見通しから軟調に推移しました。

香港リート市場は、月末にかけて、金融政策で連動する米国においてFRB（米連邦準備制度理事会）議長がインフレ高止まりへの警戒を示し、利上げ観測が高まったことなどが嫌気されました。

オーストラリアリート市場は、RBA（オーストラリア準備銀行）が8月に2会合連続で政策金利を据え置きましたが、インフレ高止まりに警戒的な姿勢を示し、追加利上げ観測が根強いことが重石となりました。

＜運用経過＞

マザーファンドの運用は、エリア及び銘柄毎の魅力度に応じ、リバランス（投資配分比率の調整）を実施しました。

＜市場見通し＞

【日本】

Jリート市場は、一進一退を想定します。

引き続き魅力的な分配金利回りや、良好な不動産市場のファンダメンタルズなどが支えとみています。一方で、今後の複数回の追加利上げや、早期利上げの実施（早ければ9月の日銀会合）については市場で一定程度織り込みが進んでいるとみるものの、中立金利やターミナルレートに関する議論が収束しない段階では、予断を持ちにくく、関連議論に振られやすい展開を想定します。

【アジア・オセアニア】

アジア・オセアニアリート市場は、ファンダメンタルズに基づいた評価に加えて、各地域の景気動向や金融政策を見据えた投資を行っていきます。米国ではトランプ大統領が中間選挙に向けて強硬的な対外政策を続ける可能性があり、地政学リスクが依然残っていることに留意します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「リート・アジアミックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

シンガポールリート市場は、一進一退を想定します。

8月、政府は2026年通年のGDP（国内総生産）予測の上方修正を発表しました。シンガポールでは、特に製造業においてAIデータセンターなどに使われる半導体や関連製造装置への世界的な需要が追い風となっています。引き続き堅調な国内景気が同市場の支えとみています。

香港リート市場は、一進一退を想定します。

香港では割安感、香港リートのストックコネクト（上海・深セン－香港株式相互取引制度）への組入期待などが支えとみています。香港経済には改善の兆しがみられ始めていますが、リート各社の決算で確認される賃料動向は依然として減額改定が続いており、本格的な回復には時間を要するとみています。

オーストラリアリート市場は、一進一退を想定します。

オーストラリアでは、8月末に発表された7月のインフレ率が依然として高水準であったことから、追加利上げ観測の高まりが投資家心理の重石となっています。引き続きこれまでの利上げの効果を見極める段階にあるとみて、国内の景気指標に注目が集まる展開を想定します。中長期的には、底堅い国内景気が同市場の支えとみています。

(ESGトピック)

世界各地にホテルなどを保有するシンガポールリート、キャピタランド・アスコット・トラスト（以下、CLAS）は、社会（S）面で宿泊客と従業員の安全・安心を重点に据えています。保有物件の一部を運営するキャピタランド・グループのアスコットは、インターナショナルSOSと提携し、オンラインでの医師の診察や相談、旅行先の治安に関する助言、心のケア、緊急時に安全な場所へ移動する際の支援などを宿泊客に提供しています。また、衛生プログラム「Ascott Clean360」に沿って、手指消毒液の設置や、手が触れやすい場所の重点清掃を継続しています。従業員の安全については、環境と労働安全衛生の国際規格を13カ国で10年以上維持し、シンガポールの物件では毎月の安全点検、各拠点では危険箇所の洗い出しと見直しを行っています。CLASは直近のサステナビリティレポートにおいて、2025年を通じて、従業員・工事業者ともに、死亡災害および重大な労働災害はゼロであったと報告しています。さらに、障がいのある人も泊まりやすいホテルづくりを進めており、シンガポールの政府系機関と宿泊業界で初めて協力合意を結び、2027年までに世界の現場スタッフ全員が障がいへの理解を深める研修を終える目標を掲げています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

※ このページは「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「リート・アジアミックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

こうした安全・衛生とインクルージョンの取り組みは、多様な宿泊客の取り込みやブランド評価に繋がり、中長期的な物件価値の維持向上に貢献するものと考えられます。

＜今後の運用方針＞

上記見通しに基づき、今後もファンドの基本コンセプトである、「収益の成長性に加え、配当利回りなどのバリュエーション（投資価値評価）に着目した運用」を行います。アジア・オセアニアリートにはJリート投資だけでは得られない際立った魅力（高水準の利益成長の実現、Jリートよりも高い配当利回りなど）を持った銘柄があります。外部環境にも留意しながら、引き続き個別銘柄選択を重視し、ファンドを特徴づける魅力的な銘柄群に投資する方針です。

また、我々はアジア・オセアニアリートにおいてESGリサーチを行っています。ESGリサーチを活用したリートとの対話を通じて、リーートの企業価値の向上を図り、ひいてはファンドのパフォーマンスの改善、リート市場のサステナビリティ（持続可能性）向上を推し進めていく所存です。

なお、IPO（新規株式公開）の申し込みにあたって、いわゆる関心の表明等を用いた手法を活用することも検討していきます。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be
Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

ファンドの特色

- 投資信託への投資を通じて、世界各国の債券、株式、リートに分散投資します。
 - 各資産への投資は、以下の投資信託証券を通じて行います。

日本株式	FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）
グローバル株式*1	グローバル好配当株マザーファンド
日本債券*2	FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）
海外債券	コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド
リート	FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）
 - *1 日本株式を含みます。
 - *2 日本の民間企業またはその子会社のほか、国、地方公共団体および政府関係機関が発行する外貨建債券を含みますが、原則として対円での為替ヘッジを行います。
 - 投資信託証券は、投資対象資産、投資手法および費用等を考慮して選定します。
 - 安定したインカム収益を長期的に獲得することを目的として、基本資産配分は原則として固定配分とします。
 - それぞれの資産の時価変動等に伴う各資産比率の変化については、一定の範囲を設けて調整を行います。
 - 市場環境等が大きく変化した場合、基本資産配分の見直しを行う場合があります。※基本資産配分は、安定したインカム収益の長期的な獲得を目的とするとともに資産間のバランス等を勘案して決定します。ただし、投資対象とする資産やその配分比率は見直しを行う場合があります。
 - 実質組入外貨建資産の一部に対して、対円での為替ヘッジを行うことがあります。
 - 基準価額は、為替ヘッジを行わない実質組入外貨建資産に対する為替変動の影響を受けます。
- ※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 債券市場リスク

【債券の価格の下落は、基準価額の下落要因です】

一般に債券は内外の経済情勢等の影響による金利の変動を受けて価格が変動します。通常、金利が上昇すると債券価格は下落します。また、格付けが引き下げられる場合も債券価格が下落するおそれがあります。債券価格の下落はファンドの基準価額が下落する要因となります。なお、価格の変動幅は、債券の種類、格付け、残存期間、利払いのしくみの違い等により、債券ごとに異なります。



三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

投資リスク

■ 不動産投資信託（リート）に関するリスク

【リートの価格の下落は、基準価額の下落要因です】

リートの価格は、不動産市況や金利・景気動向、関連法制度の変更等の影響を受け変動します。また、リートに組み入れられている個々の不動産等の市場価値や賃貸収入、個々のリートの事業活動や財務状況等によっても価格が変動します。これらにより、ファンドが組み入れているリートの価格が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

【部分的な為替ヘッジにより、円高が基準価額に与える影響は軽減されます】

ファンドは、実質組入外貨建資産の一部について対円での為替ヘッジを行うことがあります。為替ヘッジが行われていない部分については為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

為替ヘッジが行われている部分については為替変動の影響を受けますが、原則として対円での為替ヘッジを行うため、その影響は限定的と考えられます。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。なお、円金利がヘッジ対象通貨の金利よりも低い場合、その金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。また、需給要因等によっては金利差相当分以上にヘッジコストがかかる場合があります。

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

【分配金に関する留意事項】

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。



愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2024年1月4日設定）

決算日

毎年5月、11月の15日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に**3.30%（税抜き3.00%）を上限**として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
換金申込受付日の翌営業日の基準価額に**0.13%**を乗じた額です。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に**年0.957%（税抜き0.87%）**の率を乗じた額です。
※投資対象とする投資信託の運用管理費用を含めた場合、**年0.9812%（税抜き0.892%）程度**となります。ただし、投資対象とする一部の投資信託において運用管理費用（信託報酬）がかかるほか、各投資信託においてその他の費用・手数料がかかります。その他の費用・手数料は運用状況等によって変動するため、事前に料率等を示すことができません。上記の料率は、2026年5月末現在の情報に基づくものであり、今後、変更される場合があります。
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。
- ※ 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合
少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。
ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした公募株式投資信託等を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター： 0120-88-2976 【受付時間】 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三井住友信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



愛称：はぐくむニーサ(成長)
三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(成長投資型)

マンスリー・レポート

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年08月31日

販売会社								
販売会社名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	日本証券業協会	備考
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第67号	○		○			
スターツ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第99号	○		○			
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第121号	○	○				
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第8号	○					
株式会社北九州銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第117号	○			○		
株式会社富山第一銀行	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第7号	○					
株式会社もみじ銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第12号	○			○		
株式会社山口銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第6号	○			○		

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用

